

令和6年度第1回一関市社会教育委員会議 会議録

- 1 会議名 令和6年度第1回一関市社会教育委員会議
- 2 開催日時 令和6年7月10日（水） 午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所 2階 大会議室B
- 4 出席者
  - (1) 委員 鈴木道明委員、平野和彦委員、栃内宏之委員、小岩孝朗委員、館澤敏子委員、大石敦子委員、三浦喜博委員、小島正明委員、佐藤寿幸委員、小野寺美枝子委員、三浦尚博委員、青柳さつき委員、熊谷繁弘委員、千葉喜代一委員、村上とも子委員、金森勝利委員、白石理恵委員
  - ※欠席者 菅原祝子委員、吉田美和子委員、小山亜希子委員
  - (2) 事務局 時枝直樹教育長、小野寺愛人まちづくり推進部長、藤倉忠光一関図書館長、佐々木修路一関市博物館次長、氏家克典教育委員会事務局副参事兼文化財課長、伊藤信子いきがづくり課長、佐藤康隆いきがづくり課市民センター係長兼社会教育主事、阿部彰いきがづくり課主査、千葉理央いきがづくり課主事
- 5 議 事  
議長及び副議長の選任について
- 6 説 明
  - (1) 社会教育委員について
  - (2) 教育委員会の事務事業等に関する点検評価について（社会教育関係）
  - (3) 市民センターの指定管理の状況について
  - (4) 教育振興運動推進プラン（2024～2028）について
- 7 公開、非公開の別 公開
- 8 傍聴者の数 なし
- 9 会議内容
  - (1) 委嘱状交付
  - (2) 教育長挨拶

本日は、第1回社会教育委員会議にお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど、皆様に社会教育委員の委嘱をさせていただきました。令和8年5月31日までの2年間となっておりますので、お力添えをよろしくお願ひしたいと思っております。

す。委嘱にあたりましては、前回の会議で、民間企業から委員に入ってもらったことの提案もございましたので、今回民間企業からおひとり委員に入っていたところでもあります。

皆様にお力添えをいただきます社会教育委員につきましては、一言で申し上げれば、社会教育に関する様々な計画に対しての立案や意見をいただくこととなります。この社会教育に関わって現在、一関市では人口減少を大きな課題としております。そのことによって少子高齢化が急速に進んでおります。そのことから地域の担い手が不足していくことや、あるいは家族形態の変化によって人々の意識の多様化による人と人との繋がり希薄化とか、社会的に孤立する方が出てくるのではないかと心配がされているところでもあります。

教育委員会が管轄しております小中学校に目を向けてみますと、令和5年度と令和6年度の小学生、中学生の一関市内の子どもの数は約300人ちょっとのところ減少しております。これは今後も続くだろうと思っておりますので、今の小中学校に通学している児童生徒は、今まで以上に将来地域を支える大切な人材になっていくということから、これまで以上にコミュニケーションの力を育むために言葉を大切にする教育とか、あるいは目的意識を持つということによってキャリア教育に力を入れているところでもあります。

今後、大人を含めまして社会全体に目を向けますと、一関市としては地域づくりに取り組んでいくことや家庭における教育力を高めていくこと、あるいは市民が将来にわたって学べる図書館、博物館などの文化施設、そして文化財の環境を整えていくということが課題であると感じているところでもあります。そういう意味で、社会教育というのは個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割がある大切な教育であります。

また、本県独自の教育振興運動として子ども、家庭、学校、地域、行政の5者がそれぞれの役割と責任を果たしていく、教育振興運動も社会教育の側面として重要な役割を果たしております。そのことも含めまして、この後に説明させていただきますが、今後、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、社会教育行政につきまして進めてまいりたいと思っておりますので、本日そして委嘱された2年間、どうぞよろしく願いいたします。

## 10 議 事

互選の結果、千葉喜代一委員が議長に、白石理恵委員が副議長に選出された。

## 11 説明

### (1) 社会教育委員について

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。

(2) 教育委員会の事務事業等に関する点検評価について（社会教育関係）

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。

(3) 市民センターの指定管理の状況について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 指定管理に移行していないところの見通しについては、どんな状況か。

事務局 まず、狐禅寺市民センターについては、まずは地域協働体の組織を立ち上げていこうということで話合いがなされているところであり、本年度も何回か立ち上げに向けての話合いをする予定となっている。

また、大原市民センターについては、地域協働体大原まちづくりの会は、立ち上がっているの、あとは市民センターの指定管理に向けてということで話合いをしていく。

(4) 教育振興運動推進プラン（2024～2028）について

資料に基づき、岩手県教育委員会事務局県南教育事務所の佐々木正輝社会主事、岩手県立県南青少年の家の佐藤敦士所長から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 説明ありがとうございました。資料の23ページのスライド13番のところだが、課題設定の背景のところでもコロナ禍を経て不登校の児童生徒が増えてきているという資料をご提供いただいたところである。少子化の流れの中で不登校の子ども達が、どこの県でもだが、岩手県でも増えているという状況である。私は高等学校に所属しているが、現任校でも前任校でも、先生方が家庭訪問したり、本人に会えなくてもおじいちゃんおばあちゃんに会ったり、保護者に会ったり、毎朝電話で確認したりする中で、今後どうするかといったいろんな話をしたりするのだが、例えば、昼夜逆転していて夜はずっとゲームをしているというような子どもがいる。ゲーム依存症じゃないかと先生方は言うが、保護者の方は「依存症とは違います、悩んでいるだけです。」とか、「そういった捉え方の違いです。」とか、いろいろ問題があるが、もしご存知であれば社会教育という視点で、放課後子ども教室等、不登校の子ども達が行ける場所、学校が終わった後の子どもの居場所があるというご説明をいただいたが、フリースクールも含めて、不登校であったり教室には行けないが集まって遊べる場、あるいは話せる場所であり相談する場所、あるいは機会とかそういったものがこれまで設置された事例があったのかご存知であれば教えていただきたい。

教育長 小中学校の不登校の児童生徒数は、本年度も昨年度より増加傾向にある。今日の午前中に小中学校の校長会議を行って、その状況についてお話ししたとこ

ろである。不登校の子ども達の居場所というのは、基本的には各学校で別室とか、保健室とか支援センターなどがある。また、学校に登校できない子ども達のために、教育委員会の教育研究所で千厩支所と山目市民センターに、たんぼぼ広場という教育支援センターを準備している。これは週2回だが、教育委員会学校教育課又はたんぼぼ広場の電話番号などは小中学校には周知しているし、一関市教育委員会のホームページでも窓口は掲載している。本年度から花泉地域の旧花泉小学校に虹の学園という民間のフリースクールが立ち上がったので、そこと教育委員会は連携しているという状況である。

委員 ありがとうございます。小中学生の生徒でも例えば中学校は不登校傾向だったけれども高校に進学してからがんばって登校できて卒業できたとか、逆に高校に入るまでは順調だったけれど、高校2年生あるいは高校3年生になってから行けなくなって転学したとか、いろんなケースがある。そうすると学校に所属している間は学校と繋がっているが、成人した後も18歳以上のところでこの教育機関にも関わってこなかった方とか、あるいは、民間企業などへ就労したけれど辞めて、定義もいろんな形があると思うが、引きこもっている方々をこの社会教育という大きな視点から見た時に、地域との関わりだったり、あるいはご家族の悩みの共有だったり、啓蒙啓発だったりという、そういった視点がもしあると良いのかどうかということも検討はされてきたのだと思う。引きこもっている方々がどの程度いるのかということのもちよっと疑問に思っているので、お分かりでしたらということであり、あとは感想を含めていろいろ引きこもりの方々にも目を向けていかなければ人が減っていく中でそういった引きこもりの方々もご苦労されているのではないかと感じた。

事務局 義務教育の関係は、先ほど教育長から申し上げたとおりである。高校であったり一般の社会人のお話だったと思う。そちらの分野は市の行政課題という意味合いで言えば、健康こども部で、課題を捉えて取り組んでいることだと思う。詳しい内容までは私も把握してはいないが、そういう方々がいらっしゃるということで取組を進めているはずなので、いまお話しいただいたようなことはしっかり伝えておきたいと思う。

事務局 教育振興運動推進プランの中で、24ページの方に既存施設の活用で学習の場作りを推進し、学習意欲の向上に資するというような表記があるが、県としてはどういったものを想定しているか。学習の場作りというのが、塾とかそういうものではないと思うが、どういった取り組みを地域の方に求めていくのかなというあたりを確認したい。

岩手県教育委員会事務局県南教育事務所の佐々木正輝社会教育主事

既存の施設なので、市民センターで行われている様々な各種事業などもこの家庭学習の充実の方にも入ってくる。あとは市外になるが、地域未来塾という形で地域のOBの先生方を活用した学習塾みたいなものを、これは想定もしているということで、様々な展開事例があるかなと思うので、ご検討いただければと考えている。

事務局 ありがとうございます。様々な事例があるということだったので、後でどういった事例があるか、ぜひご提供いただければ参考にさせていただきたいと思う。

議長 三浦委員が社会教育士の講習を修了されたということで、大変ご苦労様でした。この会議でもたびたび話題になっており関心の高い講習なので、講習を受けられた感想とか、あるいはこれからの抱負みたいなことをお聞きしておくとな非常に勉強になるかなと思うが、一言お願いして良いか。

委員 私は5年前までは電気会社において全く違うところから、市民センターに勤務するようになって、社会教育を学び始めた。その中でやはり今いろいろ出てくる地域づくりが問題になっている中で、どうやって回せるかなというのを考えているときに、ちょうど声掛けいただいたので今回受けることにした。講習を受けるまでは何とかあのテストに合格するために一生懸命とにかくやったが、今回いろんな機会をいただいたので、もう一度学び直しをしながら地域づくりを進めていきたいと思っている。まずは地域づくりをしながら、人づくり、あとは将来を担っていく若い人、子ども達を何とか巻き込んで進めていければと考えている。

議長 これからたくさんの方があとをついて講習を受けてくださることを期待したい。

12 担当 まちづくり推進部いきがづくり課